

総務省が方針転換

パスワード 定期変更「不要」



7 パスワードの定期変更は必要なし。流出時は速やかに変更する
8 パスワード流出時、攻撃に注意

定期的に変えるのはかえって危険……。総務省がインターネット利用時のパスワードについて、従来の常識を覆すような注意喚起を始めた。「推測しやすい文字列になって不正アクセスのリスクが増す」というのが理由で、複雑なパスワードを使い続けるよう呼びかけている。方針転換に困惑する声も少なくない。

推測容易になる恐れ

「定期的にパスワードを変更しましょう」。3月1日、総務省の「国民のための情報セキュリティサイト」からこんな記述が消えた。2017年秋に「定期変更は不要」との文言を追加したことを受け、矛盾を解消したという。

パスワードは第三者による「なりすまし」を防ぎ、ネット上の個人情報や財産を守る。ハッカーなどは他人のパスワードを把握しようと、文字の組み合わせを全て試す「総当たり攻撃」や、よく使われる語句を手当

省庁や企業戸惑い

安全なパスワードの管理方法

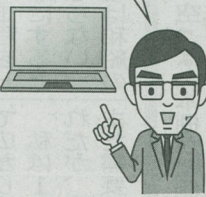
悪い例

- ① 名前と生年月日の組み合わせ
例: 1980年3月16日生まれの山田太郎さん
→ 「Yamada19800316」
- ② パソコンにパスワードを書いたふせんを貼る
- ③ 各パスワードの語尾が「01」「02」
例: Yamada1980031601
Yamada1980031602 など

適切な例

- ① ランダムな文字と数字、記号の組み合わせ
- ② ノートやパスワード管理アプリなどに保存
- ③ 各パスワードに関連性がない

定期変更すると、覚えやすい文字列になり危ないよ



他の人からは類推されないように

内閣サイバーセキュリティセンターが発行する冊子には「パスワードの定期変更は必要なし」との記述がある

「辞書攻撃」などを仕掛けてくる。パスワードの定期変更は不正を防ぐ有効な手段とされてきた。しかしサイバー攻撃が盛んになる

中、米国などでは16年ごろから「定期変更はしない方がいい」という意見が高まってきた。日本でも同年12月、サイバー攻撃対策を担う内閣官房の内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)が「必要なし」とする見解を示した。総務省の方針転換もこの見解を受けたものだ。

安全に設定 どうすれば？

最低でも10桁 / 文字列 不規則に

安全なパスワードを設定するには、どのような点に気をつけなければならないか。内閣官房の内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)は「英語の大文字と小文字、数字、記号を組み合わせ、少なくとも10桁にするのが望ましい」としている。規則性のある文字列や単語は使わず、不規則で複雑なものが望ましい。

また盗まれた端末からログインされるのを防ぐため、ネット閲覧ソフトに自動でパスワードを記憶させる機能も使わない方がよいという。

変更のタイミングは「パスワードが破られサービスが不正利用されたことが判明した時。その場合は速やかにパスワードを変更した上で、破られた原因についても特定してほしい」としている。

「頻繁に変更を求めらるると、少ない字数で覚えやすい語句を使った、変更前と似た語句を使ったりするようになり、他人が類推しやすくなる」。IT会社ソフトバンク・テクノロジ(東京)の辻伸弘氏はこう指摘する。

例えば「Yamada201803」といった

名字と年月、誕生日などを組み合わせ、末尾の数字だけを毎月「01」「02」と変更する方法は見破られやすい。

さらに多数の機器やサービスでの定期変更が面倒になり、同じパスワードを使い回してしまうことで、芋づる式に個人情報などを盗まれるリスクも高まる。

政府の方針は省庁間で

も十分に浸透していない。経済産業省が16年3月に改訂した情報セキュリティ管理基準には「パスワードは定期的及び必要に応じて変更させるようにする」と明記。同省の担当者は「省庁ごとに基準が異なる」と混乱を招きかねないため、変更も含めて検討する」という。

東京都内のある機械整備会社は、社員に数カ月ごとにパスワード変更するように求めている。担当者は「定期変更が不要とは知らなかった。これまでの呼びかけは何だったのか」とがくせん。「早めにルールを見直した方がいいのだろうか……」と漏らす。

